

# 2号適用者に最適の社会資源はここ！ お世話になった社会福祉士さん 〜その3



執筆 ▶ 葉山 靖明 ● (株)ケアプラネット  
「デイサービスけやき通り」代表取締役



## 20～40代のカタマヒ者で お好み焼きパーティー

お世話になった障害者就業・生活支援センターの社会福祉士（SW）さんを、支援された私葉山からインタビューする3回シリーズ。お話の最終回は、「お好み焼きの思い出」から、「社会に挑む支援」というお話です。

2008年に私はデイサービスけやき通りを運営し始めて、「就業面」も「生活面」も支援がいらなくなったので、このSWさんとは疎遠になりました。疎遠ではなく自立ですね（笑）。

今から3年前、そのSWさんから久しぶりにメールがきました。その内容は、「葉山さんと同じ若いカタマヒの方がセンターに来るので、良かったら一緒に集まって食事しながら経験談とか話してくれませんか？」というものでした。

夏のある土曜日の夕刻から、20代から40代の5人のカタマヒ者がセンターのロビーに集まり、お好み焼きパーティーが行われました。その中で、みんなで体験を話したり、悩みを聞いたりしました。特別の空気感があり、同じ境遇を負った者どうしが意気投合し、みんなで夜の街へと繰り出していました。

センターに当事者が集い、集団で活動する——「そういう活動ってよくするんですか？」と、私はSWさんに尋ねました。

「はい、しますよ。個別の支援では

なく、グループで行う意味があるかなというときには、意図的にグループを作ります。ソーシャルワークの援助技術法の一つである集団援助技術です」

さらに私は質問しました。「その集団援助技術の目的は何なのでしょう？」

「発症後まだ間もない方は、仮に前向きでも、やっぱりまだ整理しきれていないところがあると思います。その方が発症後3年、4年の方に会い、どんな生活をしているのか等の体験を聞くことができます。いろんな方がいるんだなと知ることができます」

私もこういった支援は、特に必要だと思えます。特に2号適用の50代とかの方は、デイサービスに行っても年齢が離れている方が多かったり、サービスが介護やレクレーションだったり、閉口してしまう場面が多いのです。このSWさんの集団援助は、なかなかできるものではなく、素晴らしいと思います。



## 小さな社会参加から 大きな社会参加へ

それ以降、その「集団」は、夜の街で当事者を中心に会う回数を重ね、あるときに私が提案し、働いているカタマヒ者を中心に公共施設の会議室を借り、「活動報告会」を行いました。各自レジュメを作って、一人15分くらい、スライド準備したり、内輪で「発表」しました。そのSWさんも聴講に来てくだ

葉山 靖明 はやま やすあき  
1965年福岡県生まれの51歳。専門学校で法人税法及び簿記論の講師を務めていた2006年、40歳のときに左脳の脳内出血発症し右片まひに。翌年それまでの職場を辞して(株)ケアプラネット設立。現在は、デイサービス経営のかたわら講義・講演活動を継続中。社会福祉法人「夢のみずうみ村」役員。人間科学修士



2016年6月の  
NPO 設立総会。  
再離陸のとき

さいました。吹っ切れたような、何か不思議な感覚が、私たち一人ひとりの中で生まれてきたようでした。小さな社会参加でした。

そして、みんなで話し、「次はこの就労体験を社会に向けて発信しよう!」ということになり、小さなホールを借り、ポスターを作り「就労体験報告会」を開きました。そのイベントのポスターにはこう書きました。『仕事に就くまで、そして、仕事に戻るため。～片麻痺者5人が届けるメッセージ～』。発表者は4人、葉山は座長、お客さんは40名くらいで満員でした。2014年7月でした。今度は、大きな社会参加でした。

私たちは、自分たちの目的地も分からないまま進みました。SWさん曰く「そういう場って緊張感も加わりますよ。各メンバーの中で変化も現れますよね」

環境の中で肯定的な「変容」を起こすようなかかわりを仕掛ける。ありが

たいことです。

次に、2015年8月には、そのカタマヒメンバーと作業療法士(OT)さんら合計21名で1泊2日の研修旅行に出かけました。障害者の24時間をOTさん達の方が学ぶ特別な研修です。このときはもうSWさんはかかわっていませんでした。でも、遠くから見ていてくれるような安心感がありました。



## 離陸

そして、2016年2月に、カタマヒメンバーやリハビリテーション研究者とNPO法人を作って、社会貢献しよう!となり、私が全書類を作成し、3月に設立総会を開きました。まるで、古い中古の飛行機が、再離陸するようでした。

それがNPO法人「学びあい」です。理事5人中、4人はカタマヒ者、理

事長も、副理事長(葉山)もカタマヒ。そして、監査役員として、そのSWさんに就いていただきました。

同年6月には認可が下り、正式に法人格を取得しました。

ここまででお分かりのように、「障害者就業・生活支援センター」の、特にこのSWさんの支援は介護目的ではなく自立のためのかかわりであり、自立目的の集団に対する、多面的な社会という環境の支援なのです。読者のケアマネさんも悩んでおられる“自立支援”の部分の、立ち振る舞いや思考回路をこのSWさんは持ち合わせていると思います。

SWさんに、NPO学びあいへの、これからの期待することを尋ねました。

「んー。私が期待してどうのこうのするものではなくて、皆さんで楽しくやってもらったらよいと思いますよ。はははっ(笑)」

さすが、当事者主体なのですね。

## 今月の私

## 手前、フーテンの靖さんと申します!!



寅さん記念館前。似てますか!?

みんな納得したのでした。

(^^)

中でも矢切の渡しは、江戸時代にタイムトリップしたような、のどかな川旅。同船した老夫婦と会話を交し「昨日は新潟にいました」と話すと、「お仕事は?」と聞かれ、なんだか本職の説明が難しく「寅さんみたいな仕事です!」と返答。不思議に

な仕事です!」と返答。不思議にみんな納得したのでした。

10月は全国で講演が11本もありました。この雑誌を発行している会社が、東京ビッグサイト国際福祉機器展で開いてくれた講演会もありましたね。いらしてくれただ方、ありがとうございました。

その前日は貴重な空き日だったので、友人2人と葛飾柴又を観光しました。「男はつらいよ」の舞台、帝釈天参道、寅さん銅像、件の草団子屋、寅さん記念館、山田洋二記念館、そして矢切の渡し。こんな素敵なロケーションだと、ものぐさな私も4キロは歩いたでしょうか。最高のリハビリになりました。